

## 6. 大日川原遺跡

所 在 地 明野村上神取字大日川原  
調査原因 県営ほ場整備事業  
調査期間 1999年4月3日～6月14日  
調査面積 2,250m<sup>2</sup>  
調査主体 明野村教育委員会  
担当者 高田賢治・内藤かおり



大日川原遺跡は、塩川左岸の河岸段丘上、標高498mに位置する。河岸段丘は塩川の蛇行により幅20mから100mと変化し、現御領平集落付近でもっとも狭くなり、現下神取集落北側で大きく広がる。遺跡は、北側で狭い段丘が南に向かって広くなるあたりに位置し、さらに南に分布するものと思われる。御領平を経て下神取に至る間の段丘上には、平成4年度に調査された神取遺跡が所在した。

遺跡からは、古墳時代前期の住居跡1軒、古墳時代前期の方形周溝墓12基、平安時代の住居跡1軒が検出された。北巨摩郡内での方形周溝墓の調査例は、垂崎市坂井南遺跡、長坂町北村遺跡について3例目で、茅ヶ岳山麓では初事例である。

方形周溝墓12基は、一部に重複が見られるものの河岸段丘西端に整然と並んでいるため、方形周溝墓の造営時期に大きな時間差はないと思われる。塩川の浸食により河岸段丘西端の方形周溝墓は失われている。周溝内からは高坏、甕などが多数出土しているが、方形周溝墓間で遺物の出土量に差異がみられ、4号・6号・10号・11号方形周溝墓で比較的出土量が多い。完形に近い土器は、底部もしくは胴部に穴があけられている。一部の方形周溝墓方台部には土坑が検出されているが、遺物は出土せず、埋葬施設であったのかは不明である。4号方形周溝墓の東側周溝からは、壺棺状の埋設土器が検出されている。頸部以上を欠いた壺に、別の壺の底部と口縁部を用いて二重に蓋を被せている。壺内から遺物は検出されていない。周溝がある程度埋没した後に埋められたと思われる。

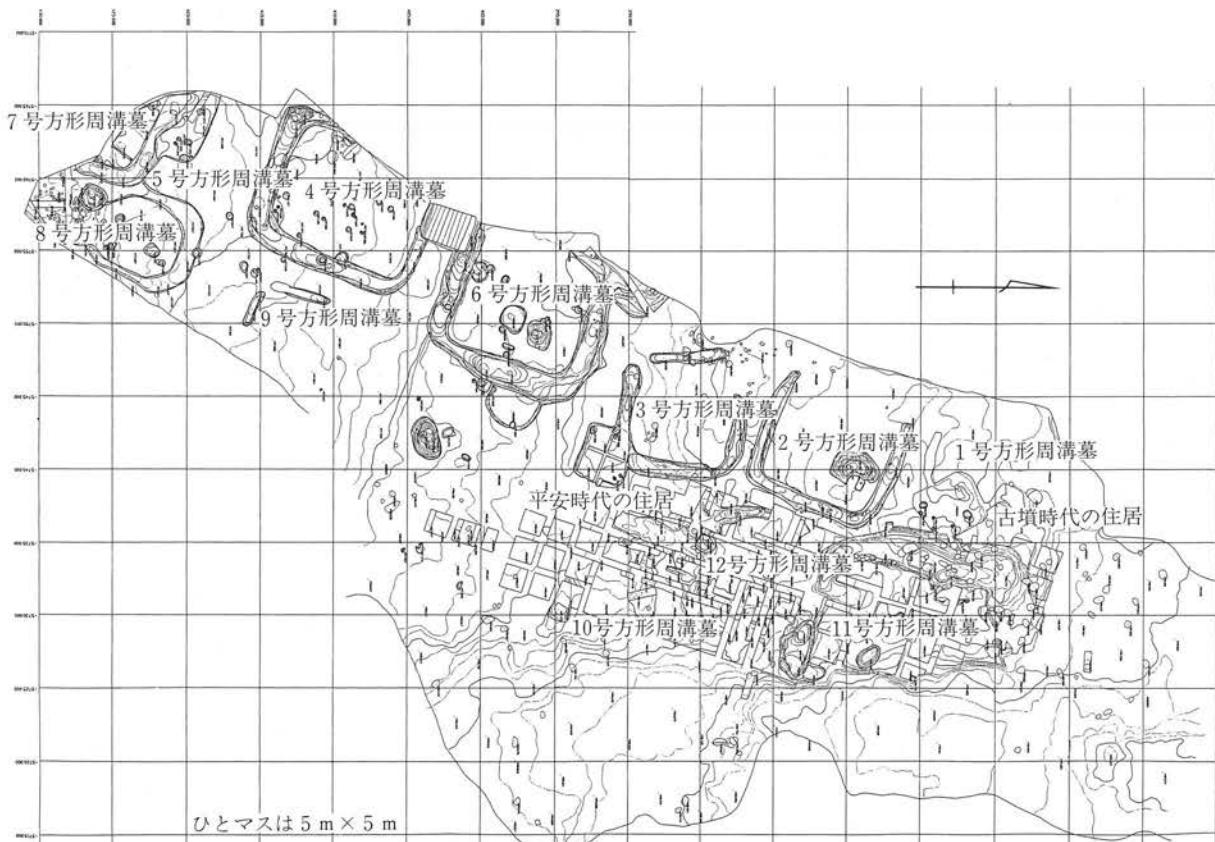
1軒のみ検出された古墳時代前期の住居跡は、1号方形周溝墓より新しい。

発見された方形周溝墓中で、比較的規模の大きな10号・11号・12号方形周溝墓は、段丘端からやや奥まった地点に隣接して位置している。これら3基の大型の方形周溝墓は、それぞれが周溝の一部を共有し、方形周溝墓南辺にあたる周溝内でまとまった遺物が出土する点や、貼石、勾玉管玉の出土など、他の方形周溝墓には見られない特殊性も共通している。

11号方形周溝墓の、方台部西辺の周溝底にかけての法面には貼石が施されている。人頭大からひと抱えほどもある礫を法面傾斜にあわせて上下3段に貼ってあるが、石積みと呼べるようなものではない。このような貼石例は、山梨県内では知られておらず初事例となるが、長野県伊那地方から近畿地方にかけての、弥生時代後期から古墳時代の類例がある。南辺周溝内からは、高坏が多数出土している。

12号方形周溝墓の南辺周溝覆土から、緑色凝灰岩製の勾玉1点、管玉6点が出土した。これらは一組の装身具と考えられるが、ばらばらになって出土している。10号墓では三口台付壺が出土した。

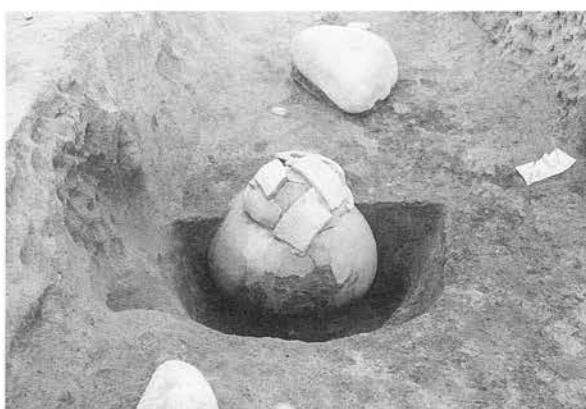
遺跡の南700mには、古墳時代前期の住居跡8軒が検出された神取遺跡がある。両遺跡から出土した遺物はほぼ同時期のものであることから、塩川の段丘上に集落と墓域が同時に存在したものと思われる。



大日川原遺跡全体図



遺跡遠景（南方より）



4号方形周溝墓周溝内の埋設土器



11号方形周溝墓の貼石



12号方形周溝墓勾玉・管玉出土状況